

## 平成30年度 第1回山梨県考古博物館協議会議事録

1 日 時 平成30年7月11日（水） 14:00～15:30

2 場 所 考古博物館（風土記の丘研修センター講堂）

3 出席者（敬称略）

（委員） 石川博、井出薫子、小林千澄、笹本森雄、田代孝、丹沢良治、  
中村京子、長澤宏昌、古屋美代、堀内秀樹、堀内正基、渡邊富孝  
（事務局） 萩原館長、一瀬副館長、高野次長、小林学芸課長、総務課員3名  
百瀬学術文化財課長、白須企画担当課長補佐

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 任命状交付
- (3) 委員紹介
- (4) 事務局職員等紹介
- (5) 議事
- (6) その他
- (7) 閉会

5 会議に付した事案の件名

- (1) 平成29年度考古博物館事業実績について
- (2) 平成30年度考古博物館経過・予定事業について
- (3) 考古博物館利用状況について
- (4) 委員提言に対する対応・検討状況について
- (5) その他

6 議事の概要

- (1) 平成29年度考古博物館事業実績について
- (2) 平成30年度考古博物館経過・予定事業について

（委員） こどもまつりの集客比率が高いのでこどもまつりの一層の充実を。昨年の「こどもまつり for 考古博物館」の for は、at か in が正しいのでは。

（事務局） こどもまつりは例年風土記の丘研修センター周辺で行っている。昨年は研修センターの工事のため考古博物館周辺で行った。周辺で、という意味でこのような名称とした。イベント名は検討する。

(委員) 夏休みスタンプラリーについて、勾玉、大珠、プラバンの作製は参加者が多いが、他のイベントは参加者が少ないのはなぜか。

(事務局) イベントの開催日数によるもの。

(委員) 館長講座などを風土記の丘研修センターで行っているが、交通アクセスが悪いため、高齢者などは参加が難しいと思う。より多くの方に参加していただくためにも、県立図書館や県庁防災新館など、甲府駅周辺の会場で開催していくことも必要では。

(事務局) 図書館や防災新館などは競争率が高く、ホテルなどは会場費が高額なため、甲府駅周辺での確実な会場の確保は難しい。しかし、アクセスの悪さをご指摘のとおりである。良い方法がないか検討する。

(委員) 過去の館長講座などを、インターネット上で見られるようにしてはどうか。

(事務局) 検討する。

(委員) 「縄文にハマる人々」、という映画があるが、上映している映画館が少ない。この考古博物館で上映できないか。

(事務局) 「縄文」は当館の SNS に掲載すると反応が良く、さまざまな書籍が発行されており、一般の方の関心が高いテーマ。映画について、当館でも調べて検討したい。

(委員) 縄文関係では「ライアの祈り」という映画もある。著作権などの問題がクリアできれば、こちらも上映できたら良い。

(委員) 「縄文王国山梨」を掲げているが、市町村とどのように連携していくのか。例えば、梅之木遺跡を見てきたが他の遺跡との連携が感じられなかった。

(事務局) 「縄文王国山梨」は、実行委員会を組織し関わっている。時期は未定だが、梅之木遺跡を使ったイベントを検討している。北杜市の方からぜひ利用を、という声が掛かっているので協力していく。

(委員) 遺跡と植物はつながりが深いと考えている。井戸尻遺跡には古代ハスがあり、行く度に違う花が咲いている。遺跡を1度見て終わりではなく、繰り返し通う楽しみがある。そういった試みも重要ではないか。

(3) 考古博物館利用状況について

特に意見なし

(4) 委員提言に対する対応・検討状況について

(5) その他

(委員) 東京国立博物館の収蔵品貸与促進事業の募集期間は。また、山梨県出土の収蔵品は優先的に借りられるのか。

(事務局) 募集期間は5、6月くらいで、来年度分は締切済み。再来年度以降の縄文の特別展などに合わせて申し込むことは可能。地元が優先という訳ではないが、東京国立博物館収蔵の収蔵品を地元の収蔵品と一緒に展示することには意義があるという意見も聞いているので、交渉の余地はあると考えている。運搬費を先方が負担する事業であるため、利用を検討したい。

(委員) イベントが多いが、働き方改革が叫ばれる中でどのように対応しているか。

(事務局) 県庁全体で働き方改革を進める中で、当館も業務改善を進めている最中である。

(委員) 文化財保護法が保存から活用に大きくシフトし、民間との連携も重要とされた。東京発バスツアーなどの実施を検討しては。

(事務局) 活用という点で、埋蔵文化財センターが千葉県のショッピングモールで行う山梨県PRイベントに縄文土器を持ち出してPRするなどしている。また、縄文王国山梨実行委員会として、甲府駅北口の縄文フェスの実施、県内のショッピングモールのゆるキャライベントへの参加などを行っている。「星降る中部高地の縄文世界」が日本遺産に認定されたが、これも活用によって地域活性化を、という趣旨なので、今後活用の機会は増えていくものと考えている。

(委員) ぜひ民間の力を利用してほしい。甲府商工会議所には「山梨マンガ・アニメプロジェクト推進協議会」がある。縄文に関するアニメなどを作って興味を持ってもらい、地域を歩いてもらって観光につなげる、ということができると良い。山梨、長野、新潟などの関係する3、4県が分担すればさほど経費が掛からないので検討をお願いしたい。

(事務局) 民間との協同について。日本遺産は協議会がまだ形になっていないが、この組織の作り方によって民間の力でさまざまな事業ができると考えている。日本遺産に認定さ

れたこの時期をとらえて、長野県、民間と十分に協力しながら事業を進めていく。

(委員) 遺跡を歩くツアーについて、参加者の反応は良かったが、単発で終わりなかなか継続しない。山梨には現地で説明できるような遺跡が数多くあり、考古博物館はそのメインの場所になり得る。そういった旅行会社の企画に職員を派遣したら、企画が継続しやすくなるのでは。

(事務局) 昨今は旅行者のツアーを選ぶ目が厳しく、縄文土器だけでの継続的な集客は難しい。自然や食べ物とセットにしたものは人気があると聞いている。継続的な開催のためには、博物館は受入れも重要だが、そういった連携も重要と考えている。

(委員) 考古博物館の学校見学について、小学校は高学年でないと理解が難しく、中学校は教育活動が数多くある中で時間を作ることが難しいという現状がある。また、考古博物館についてあまり知らない学校職員がいるのではないかとも思う。考古博物館の遺跡や出土品を紹介するDVDなどを学校に配布できれば、学校見学のきっかけになるのではないか。

(委員) 学校見学に関して、この考古博物館には、引率がしやすく、集中して見学できる環境がある。施設が広すぎないことも小中学生が見学する上では利点。東京でも行う巡回展であっても、「山梨で見る魅力」を県外の教育関係者にPRすると良いのではないか。

(事務局) 多摩地域の小学校の見学は多い。中央自動車道のインターチェンジが隣接し都心に行くより交通の便が良いことや、敷地内に本物の遺跡があることが当館の魅力。多摩、京浜への利点のPRは重要と考えている。

(委員) 博物館の立地について。町の事業でも、現地にバスで行ける講座は人気がある。交通手段の問題は大きいと考える。すぐ解決はできないだろうが検討を。

(委員) 考古博物館前の停留所に停まるバスに「考古博物館経由」と表示してもらおうとPRになるのでは。

(委員) 北杜市には歴史関係資料館が5つあるが、入館者数の問題は深刻。北杜市に限らず、市町村の厳しい現状を鑑みつつ、県には日本遺産関連などでぜひ連携してもらいたい。梅之木遺跡の話が出たが、こちらは北杜市にとっても大きな目玉。「みんなでつくる縄文」をテーマに市民参加でボランティアを募り整備している。ぜひご覧いただき、助言などいただければ。

(委員) 古代アンデス文明展のオープニングセレモニーでペルー総領事館の方と話をした。マチュピチュの世界遺産登録に日本人が尽力したと聞いた。こういった事の紹介を文化庁が考えても良いのでは。

古代アンデス文明展の開催について、考古博物館協力会の協力員の方の尽力に頭が下がる思いである。7月8日には1,300人の来場者があったと聞くが、さまざまなニーズがある中でこの来場者数であれば大成功ではないだろうか。

現在、客は統合型のものを求めている。時代のニーズを捉え、それに合った企画が大切ではないか。

(委員) 人口減少社会の中で山梨も人口が減っているため、当然来館者は減っていく。しかし、首都圏ではそれほど減っていない。山梨には多摩地域、神奈川の観光客が多いので、これらの観光客、さらには外国からの観光客を来館者として取り込めると良いのでは。将来はリニアができ、関西からのアクセスも良くなる。観光の一部として来館してもらう事も視野に入れ、考古博物館の運営を考えていくと良いのでは。

(委員) 縄文が見直されている中で、興味のある人にとって山梨はうらやましい環境なのでは。それが県民にも浸透しないのはもったいない。日本遺産認定の記事を読んでも、すばらしいものだと実感した。

一の沢遺跡出土の土偶のキャラクター「いっちゃん」はどのように活用しているのか。キャラクターなどを通じて、縄文が身近にあるとPRできれば、より山梨や考古博物館を誇りに思えるのでは。

現在、山梨が舞台のアニメを元にした聖地巡礼なども行われている。さまざまなメディアを利用してくと良いのでは。

(事務局) 「いっちゃん」は館のマークになっているが、キャラクターとしての利用まではしていない。親しんでもらうのに良い方法なので、検討していきたい。

(委員) ツイッターは良いPRなので続けてほしい。新聞の古代アンデス文明展の記事も良かった。一般人への浸透、話題づくりという点でメディアへの売り込みは重要。コラボレーションについても、昨年度県立文学館がマンガ作品とコラボして東京からも人が来た。これまで関心を持っていない層に訴えかける手法として検討しては。

また、常設展示の中で、体験型のコンテンツがあると子どもが何度も行ってみようと思うのでは。

以 上